

【資料4】

高知県住生活基本計画の概要

【序章】はじめに

<背景>

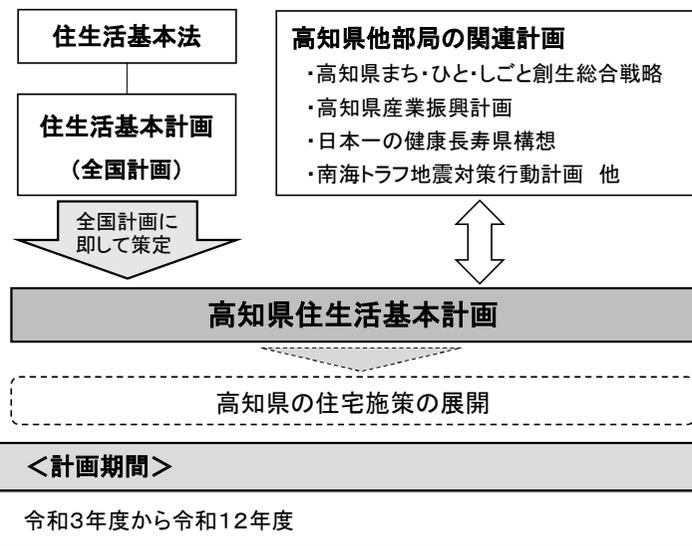
近年の社会情勢の変化による新たな課題等を踏まえ、住宅施策を総合的かつ計画的に推進するため、計画の見直しを行う。

<計画の目的>

住生活の安定の確保及び向上の促進に関する基本的な方針、目標や施策等を定め、住宅施策を総合的かつ計画的に推進する。

<計画の位置付け>

住生活基本法第17条第1項の規定に基づく都道府県計画。全国計画に即して都道府県が定める、都道府県内における住民の住生活の安定の確保及び向上の促進に関する基本的な計画。



<計画期間>

令和3年度から令和12年度

【第1章】計画の基本理念・基本方針

<基本理念> ~みんなあですすめる「こうちすまい」~

- 地震等災害から生活を「守る」
- いくつになっても活き活きと「支え合う」
- 恵まれた自然環境や地域資源を「活かす」
- コミュニティを実感し、住まいを有効な資産として次世代に「つなぐ」
- よりよい住まい方を「育む」
- こうちに誇りを持って「ずっと」住み続けたい

<取り組み主体>

実際の住まいづくりや住環境の整備に関わる県民、住宅関連事業者、行政などの各主体が、各基本方針ごとに、たがいに協力・連携しながら、基本方針に沿った取り組みを推進する。

<住生活を取り巻く現状と課題>

(1) 南海トラフ地震などの自然災害や火災への備え

- 数多く存在する耐震性を有しない住宅の耐震化
- 耐震性等を有しない住宅の密集地域の解消
- 災害による住まいの被災対策

(2) 進行する人口減少・少子高齢化社会

- 安心して暮らせる住まいの確保

(3) 多様化する住宅確保要配慮者や居住ニーズ

- 適切な規模等の賃貸住宅の円滑な確保
- 変化する居住ニーズと利用状況のミスマッチの解消

(4) 地域社会の活力や魅力の低下

- 居住地としての魅力や住環境の質の向上
- 地域の活力やコミュニティの向上

(5) 増え続ける空き家

- 世帯数を上回る住宅への対策
- 周辺生活環境への悪影響の解消

(6) 良質な住宅の普及や既存住宅の流通・活用の遅れ

- 住宅ストック活用型市場への転換の促進
- ライフスタイルに適應する多様な住宅の供給
- 一定の断熱性能を有する住宅の普及

3つの視点からの基本的な方針

「居住者」、「まちづくり」、「市場・産業」からの視点

<基本方針>

◆「居住者」からの視点

I. 安心して暮らせる住まい・居住環境

- その1 南海トラフ地震はどだいえらいき、負けんようにかまえちよき
～南海トラフ地震など災害を強く生き抜く住まい方を準備する～
- その2 こじゃんと元気で長生きが一番やき
～住み慣れた地域で安心してともに支え合いながら生き生きと住まう～

◆「まちづくり」からの視点

II. 安全・安心に暮らし続けられる魅力的な地域

- その3 人と人が触れおうて、まっこと高知のえいくがわかるがやき
～良心市の文化が息づくコミュニティに住まう～

◆「市場・産業」からの視点

III. 良質な住宅の普及による新たな住宅循環システムへの展開

- その4 自然の恵みをどっさりもろうて気持ちよう生きてみんかえ
～溢れる自然の恵みを受けて快適に住まう～
- その5 未来のおらんく(「こうちすまい」)をみんなあでつくらんかえ
～未来の高知のために愛着の持てる住まいづくり～

【第2章】計画の目標とその実現のための具体的取り組み

基本方針に基づいた10の「目標」を設定

I. 安心して暮らせる住まい・居住環境

その1 南海トラフ地震はどだいえらいき、負けんようにかまえちよき

【目標1】住宅ストックの耐震性の確保

【目標2】密集市街地の安全性の確保

【目標3】被災者の住まいの確保

【目標4】事前復興の観点による津波の被害がより少ない住まいの確保

その2 こじゃんと元気で長生きが一番やき

【目標5】安心して住むことができる公営住宅など公的住宅の供給

【目標6】民間における安心して暮らせる住まいの確保

II. 安全・安心に暮らし続けられる魅力的な地域

その3 人と人が触れおうて、まっこと高知のえいくがわかるがやき

【目標7】中心市街地の活力再生

【目標8】魅力ある地域の実現

III. 良質な住宅の普及による新たな住宅循環システムへの展開

その4 自然の恵みをどっさりもろうて気持ちよう生きてみんかえ

【目標9】県産材を使った良質な木造住宅などの普及促進

その5 未来のおらんく(「こうちすまい」)をみんなあでつくらんかえ

【目標10】「こうちすまい」づくりのための住情報の充実・市場環境の整備

計画の目標とその実現のための具体的取り組み

基本方針

今後の目標(基本施策)

具体的取り組み

成果指標

I. 安心して暮らせる住まい・居住環境

その1
南海トラフ地震はどだいえらいき、負けんよ
うにかまえちよき
～南海トラフ地震など災害を強く生き抜く住まい
方を準備する～

<南海トラフ地震など災害への備え>

【目標1】住宅ストックの耐震性の確保

- ①耐震対策の必要性の啓発・体制整備
- ②民間住宅の耐震診断・改修の支援
- ③住宅やブロック塀等の改修等による避難路の安全性の確保
- ④公営住宅などの公的住宅の耐震化の推進

【目標2】密集市街地の安全性の確保

- ①密集市街地の整備

【目標3】被災者の住まいの確保

- ①応急仮設住宅の供給体制の整備
- ②住宅の早期復旧・復興体制の整備

【目標4】事前復興の観点による津波の被害がより少ない
住まいの確保

- ①高台移転や建築敷地のかさ上げなど地域の実情に応じた事
前復興対策の検討

- ◆耐震性を有しない住宅ストックの割合
<約16% → 概ね解消>
(住宅の耐震改修への支援数)
(15,000戸)
- ◆重点密集市街地の解消の進捗よく
<約68% → 90%程度>

その2
こじゃんと元気で長生きが一番やき
～住み慣れた地域で安心してともに支え合いな
がら生き生きと住まう～

<安心して暮らせる住まいの確保>

【目標5】安心して住むことができる公営住宅など公的住
宅の供給

- ①公営住宅などの適切な管理・供給
- ②公的住宅の整備

【目標6】民間における安心して暮らせる住まいの確保

- ①高齢者や障害者等向けの賃貸住宅の供給
- ②民間住宅のバリアフリー化等の促進
- ③安心して子育てできるセーフティネット住宅などの普及促進

- ◆公営住宅の供給量
<5,700戸>
- ◆セーフティネット住宅の登録戸数
<14戸 → 300戸>

II. 安全・安心に暮らし続けられる魅力的な地域

その3
人と人が触れあって、まっこと高知のえい
くがわかるがやき
～良心市の文化が息づくコミュニティに住まう～

<魅力あるまちづくり・地域づくり>

【目標7】中心市街地の活力再生

- ①良質な住宅の供給によるまちなか居住の促進
- ②拠点となる施設の整備
- ③安全・安心なコミュニティの形成
- ④良好な景観や街なみの形成

【目標8】魅力ある地域の実現

- ①住宅や宅地の供給、住宅ストックの活用による定住の促進
- ②地域の機能、活力の維持向上の促進
- ③地域の街なみ、景観の整備
- ④空家等対策の推進

- ◆街なみ環境整備事業を活用する市町村数
<2事業主体 → 5事業主体>
- ◆空家等再生活用への支援数
<1,300件>

III. 良質な住宅の普及による新たな住宅循環システムへの展開

その4
自然の恵みをどっさりもろうて気持ちよう生
きてみんかえ
～溢れる自然の恵みを受けて快適に住まう～

<地域の資材を活用した地域産業の振興>

【目標9】県産材を使った良質な木造住宅などの普及促進

- ①民間・公的住宅における県産材の活用
- ②優良な木造住宅の普及促進
- ③地域に適した木造住宅や地域産建材の普及啓発

- ◆新設戸建て住宅の木造住宅の割合
<全国平均値以上>
- ◆新設戸建て住宅の認定長期優良住宅の割合
<約27% → 35%程度>

その5
未来のおらんく(「こうちすまい」)をみんなあ
でつらんかえ
～未来の高知のために愛着の持てる住まいづく
り～

<住宅循環型市場に向けた環境づくり>

【目標10】「こうちすまい」づくりのための住情報の充実・
市場環境の整備

- ①住生活に関する相談窓口相互の情報共有と連携
- ②多様なニーズに応じた住情報の提供、住環境に関する啓発
- ③安心して既存住宅の流通・承継ができる市場環境の整備

- ◆全流通戸数に対する既存住宅の流通割合
<約20% → 33%程度>